

■ 資料

日本におけるパーソンセンタード・アプローチに関する文献リスト(2017)

坂中正義

(南山大学人文学部心理人間学科)

要約

本論文は、2017年に発表された、わが国におけるパーソンセンタード・アプローチ関連の文献リストである。文献は、非指示的カウンセリング、来談者中心療法、パーソンセンタード・カウンセリング、パーソンセンタード・セラピー、パーソンセンタード・アプローチ、ベーシック・エンカウンター・グループ、フォーカシング、体験過程療法、フォーカシング指向心理療法、積極的傾聴法等に関するものである。収録は「来談者中心療法・パーソンセンタード・カウンセリング」「体験過程療法・フォーカシング指向心理療法」「ベーシック・エンカウンター・グループ」「その他」ごとに、A. 書籍、B. 研究論文、C. 学会発表、D. 翻訳、E. 海外文献紹介、F. 書評のジャンルに分けて行っている。

キーワード：来談者中心療法、パーソンセンタード・カウンセリング、パーソンセンタード・セラピー、フォーカシング、体験過程療法、フォーカシング指向心理療法、ベーシック・エンカウンター・グループ、パーソンセンタード・アプローチ、文献リスト

はじめに

筆者は、わが国におけるパーソンセンタード・アプローチの研究および実践を振り返り、今後の発展のための課題探索の1つの手がかりを提供するため、次のような文献リストを作成した。

1. 坂中正義 1998 日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に関する文献リスト ―ロジャース選書及び全集― 九州大学心理臨床研究, 17,

113-121.

2. 坂中正義 1998 日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に関する文献リスト（～1969） 福岡教育大学「心理教育相談研究」, 2, 9-31.
3. 坂中正義 1998 日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に関する文献リスト（1970～1974） 福岡教育大学「教育実践研究」, 6, 81-88.
4. 坂中正義 1998 日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に関する文献リスト（1975～1979） 福岡教育大学「教育実践研究」, 6, 89-98.
5. 坂中正義 1999 日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に関する文献リスト（1980～1984） 福岡教育大学紀要（教職科編）, 48, 195-214.
6. 坂中正義 1999 日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に関する文献リスト（1985～1989） 福岡教育大学「教育実践研究」, 7, 115-132.
7. 坂中正義 1999 日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に関する文献リスト（1990～1994） 福岡教育大学「心理教育相談研究」, 3, 13-51.
8. 坂中正義 2000 日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に関する文献リスト（1995～1999） 福岡教育大学「心理教育相談研究」, 4, 13-55.
9. 坂中正義 2001 日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に関する文献リスト（2000） 福岡教育大学「心理教育相談研究」, 5, 23-56.
10. 坂中正義 2002 日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に関する文献リスト（2001）—第Ⅰ部：来談者中心療法— 福岡教育大学「心理教育相談研究」, 6, 51-68.
11. 坂中正義 2002 日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に関する文献リスト（2001）—第Ⅱ部：ベーシック・エンカウンター・グループ、第Ⅲ部：体験過程療法・フォーカシング、第Ⅳ部：その他— 福岡教育大学「心理教育相談研究」, 6, 69-85.
12. 坂中正義 2003 日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に関する文献リスト（2002） 福岡教育大学「心理教育相談研究」, 7, 1-22.
13. 坂中正義 2004 日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に関する文献リスト（2003） 福岡教育大学「心理教育相談研究」, 8, 31-50.
14. 坂中正義 2005 日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に関する文献リスト（2004） 福岡教育大学「心理教育相談研究」, 9, 17-36.
15. 坂中正義 2006 日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に関する文献リスト（2005） 福岡教育大学「心理教育相談研究」, 10, 1-24.
16. 坂中正義 2007 日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に関する文献リスト（2006） 福岡教育大学「心理教育相談研究」, 11, 1-20.
17. 坂中正義 2008 日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に関する文献リスト（2007） 福岡教育大学「心理教育相談研究」, 12, 1-24.
18. 坂中正義 2009 日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に関する文献リスト（2008） 福岡教育大学「心理教育相談研究」, 13, 9-29.

19. 坂中正義 2010 日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に関する文献リスト (2009) 福岡教育大学「心理教育相談研究」, 14, 27-50.
20. 坂中正義 2011 日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に関する文献リスト (2010) 福岡教育大学「心理教育相談研究」, 15, 29-50.
21. 坂中正義 2012 日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に関する文献リスト (2011) 福岡教育大学「心理教育相談研究」, 16, 1-20.
22. 坂中正義 2013 日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に関する文献リスト (2012) 福岡教育大学「心理教育相談研究」, 17, 1-23.
23. 坂中正義 2014 日本における「来談者中心療法」及び「体験過程療法」に関する文献リスト (2013) 南山大学人間関係研究センター紀要「人間関係研究」, 13, 231-255.
24. 坂中正義 2015 日本におけるパーソンセンタード・アプローチに関する文献リスト (2014) 南山大学人間関係研究センター紀要「人間関係研究」, 14, 231-255.
25. 坂中正義 2016 日本におけるパーソンセンタード・アプローチに関する文献リスト (2015) 南山大学人間関係研究センター紀要「人間関係研究」, 15, 105-134
26. 坂中正義 2017 日本におけるパーソンセンタード・アプローチに関する文献リスト (2016) 南山大学人間関係研究センター紀要「人間関係研究」, 16, 111-139.

本論文では、これらの論文の続編として、2017年の日本におけるパーソンセンタード・アプローチ関連の文献リストを作成する。また、これまでのリストに漏れていたものを追録する。

方法

2017年に発行されたパーソンセンタード・アプローチ関連の以下のようなキーワードが論じられている文献が収集された。

非指示的カウンセリング、来談者中心療法、パーソンセンタード・カウンセリング、パーソンセンタード・セラピー、パーソン・センタード・アプローチ、ベーシック・エンカウンター・グループ、フォーカシング、体験過程療法、フォーカシング指向心理療法、積極的傾聴法、人間中心の教育等。

分類方法は、文献を「来談者中心療法・パーソンセンタード・カウンセリング

グ¹」「体験過程療法・フォーカシング指向心理療法²」「ベーシック・エンカウンター・グループ」「その他」の4部に分類³し、それぞれ、A. 書籍、B. 研究論文⁴、C. 学会発表、D. 翻訳、E. 海外文献紹介、F. 書評に分けて収録した。さらに、各部ごとに2017年の動向や代表的な文献を紹介した。

文献は、できるだけ手広く収集を努めたが、不備も予想される。それらについては、指摘をまとめて、今後の文献リストシリーズの中で、訂正、追加、補足したい。

第I部：来談者中心療法・パーソンセンタード・カウンセリング

「第I部：来談者中心療法・パーソンセンタード・カウンセリング」には関連文献のうち、来談者中心療法、来談者中心遊戯療法、パーソンセンタード・セラピーといった個人カウンセリングや「自己一致」「共感的理解」「無条件の積極的関心」「アクティブリスニング」などの基礎概念、歴史、人物等が論じられているものを収録した。

2017年の概要は次のとおりである。「A. 書籍」は2本で、いずれも単行本であった。「B. 研究論文」は37本で、そのうち2つが特集であった。「C. 学会発表」は16本で、そのうち3つがシンポジウムであった。「D. 翻訳」はなかった。「E. 海外文献紹介」は1本であった。「F. 書評」は5本で、そのうち1つが特集であった。

2017年の「来談者中心療法」の特徴は、PCAの全方位をくまなくカバーした入門書であるA-2、事例の中で中核3条件を検討したB-18、PCAの実践家育成についての提言であるB-27、書評特集であるF-3が刊行されたことであろう。

A-2は、PCAを初心者向けに解説した入門書である。これまでも良質な入門書は刊行されてきたが、これは、PCAに関わるトピックスをまんべんなく、かつ、今日的課題も取り扱いつつ、分かりやすく解説した良書である。

B-18は、こここのところ、意欲的に論文を発表している中田行重氏による事例研究で、中核3条件、特に無条件の積極的関心をめぐって、セラピストの体験と相互作用を丁寧に検討している。

B-27は、PCAの実践家育成について、現在行われているプログラムを検討し、PCA実践家の成長過程の素描と、それに応じたプログラムについて、いくつ

¹ 2017年リストより今日的動向をふまえ、「パーソンセンタード・カウンセリング」を並記することとした。

² 2017年リストより今日的動向をふまえ、「フォーカシング指向心理療法」を並記することとした。

³ 2017年リストより対象の拡がりの順序性や発行文献数を鑑み、「来談者中心療法・パーソンセンタード・カウンセリング」「体験過程療法・フォーカシング指向心理療法」「ベーシック・エンカウンター・グループ」「その他」の順に変更した。

⁴ 研究論文には便宜上、ニュースレター等も含めている。

か提言した論文である。提言に応じたプログラムの実践が望まれる。

F-3は、2015年に刊行された「ロジャーズの中核3条件（全3冊）」の書評特集である。そもそも特集としての書評は珍しい企画であるが、それだけ、近年の中核3条件への関心が高まっていることの傍証ともいえる。中核3条件等の基礎概念の検討は2017年も活発になされている（C-7、C-8、C10、C-13等）。

なお、2017年は「心理臨床学研究」に1本（B-18）、「人間性心理学研究」に5本（F-1、F-2、F-3、F-4、F-5）、関連文献が掲載された。

A. 書籍

1. 林もも子 2017 精神分析再考—アタッチメント理論とクライエント中心療法の経験から— みすず書房
はじめに
第1章 精神分析学の発展と批判
第2章 心の構造と機能
第3章 精神分析的に見る人間の発達
第4章 心理療法における見立てと精神分析
第5章 心理療法の営みと精神分析
おわりに
2. 坂中正義編坂中正義・田村隆一・松本 剛・岡村達也 2017 傾聴の心理学—PCAをまなぶ：カウンセリング フォーカシング エンカウンター・グループ— 創元社
はじめに
序章 ロジャーズ 人生の軌道と分岐点
第1章 パーソンセンタード・アプローチとは
第2章 パーソンセンタード・カウンセリング
第3章 体験過程理論とフォーカシング
第4章 エンカウンター・グループ
第5章 アプローチとしての展開
第6章 パーソンセンタード・アプローチをまなぶ
おわりに

B. 研究論文

1. 安部恒久 2017 クルマのなかのカンファレンス 野島一彦教授日本人間性心理学会学会賞受賞記念冊子, 40-41.
2. 雨宮靖子 2017 中川松枝さんを囲んでのグループ学習 カウンセリング, 49(1), 41-42.
3. 傳田容示子 2017 カール・ロジャーズに学んで—私のカウンセリング— カウンセリング, 49(1), 36-39.

4. 橋本忠行 2017 セルシオ、信頼、ヤーロム、理事長 野島一彦教授日本人間性心理学会学会賞受賞記念冊子, 36-37.
5. 畠瀬直子 2017 大学院生だった野島さん 野島一彦教授日本人間性心理学会学会賞受賞記念冊子, 26.
6. 井出智博 2017 国際会議参加報告 日本人間性心理学会ニューズレター, 88, 2.
7. 石井要子 2017 第23回二級カウンセラー研修会 ごあいさつ カウンセリング, 49(1), 1.
8. 石井要子 2017 理事長あいさつ カウンセリング, 49(1), 24.
9. 伊藤義美 2017 新米カウンセラーであったころ 日本カウンセリング学会会報, 106, 4.
10. 金子光代 2017 キーワードを自分のものにする 野島一彦教授日本人間性心理学会学会賞受賞記念冊子, 76-77.
11. 三國牧子 2017 イギリスでのカウンセラートレーニング 心理臨床の広場, 10(1), 47-46.
12. 三國牧子 2017 野島一彦の魅力 野島一彦教授日本人間性心理学会学会賞受賞記念冊子, 46-47.
13. 三矢幸子 2017 カール・ロジャーズに学んで—私自身のカウンセリング— カウンセリング, 49(1), 42-44.
14. 本山智敬 2017 大学院の5年間とファシリテーション 野島一彦教授日本人間性心理学会学会賞受賞記念冊子, 56-57.
15. 村久保雅孝 2017 恩人・野島一彦先生 野島一彦教授日本人間性心理学会学会賞受賞記念冊子, 44-45.
16. 村山尚子 2017 野島一彦先生との思い出ポロポロ 野島一彦教授日本人間性心理学会学会賞受賞記念冊子, 28-29.
17. 中川松枝 2017 カール・ロジャーズに学んで—私のカウンセリング— カウンセリング, 49(1), 40-41.
18. 中田行重 2017 PCTにおけるセラピストの内的体験とクライアントとの相互作用および終結後の変化 心理臨床学研究, 35(1), 61-71.
19. 中田行重 2017 野島先生の思い出 野島一彦教授日本人間性心理学会学会賞受賞記念冊子, 42-43.
20. 中田行重・蒲生侑依・中臺一樹・野村明希・望月大輔・山島陽香 2017 非指示性を重視するパーソン・センタード・プレイセラピー 関西大学心理臨床センター紀要, 8, 101-110.
21. 並木崇浩 2017 パーソン・センタードに基づく統合とはI—Worsley (2007) から学ぶ統合の歩み— 関西大学心理臨床センター紀要, 8, 89-99.
22. 野島一彦 2017 野島一彦教授学会賞受賞記念講演「私にとってのPerson-Centered Approach」 野島一彦教授日本人間性心理学会学会賞受賞記念冊

- 子, 1-23.
23. 野島一彦教授記念事業会編 2017 エンカウンターを大切に 野島一彦教授日本人間性心理学会学会賞受賞記念冊子
野島一彦教授学会賞受賞記念講演「私にとってのPerson-Centered Approach」
Part.1 野島先生との出会い（畠瀬直子・村山尚子・下田節夫・岡村達也・宮崎圭子・橋本忠行）
Part.2 野島先生のベーシック・エンカウンター・グループと、その生き方に触れて（安部恒久・中田行重・村久保雅孝・三國牧子・坂中正義）
Part.3 野島先生の研究室で（高松 里・吉岡公美子・本山智敬・板東充彦・山口祐子・神野 文・森本文子・谷澤祐子）
Part.4 教え子のグループの中で生きる野島先生（戸松由希子・高橋紀子・金子周平・金子光代・宮本純子）
 24. 小河 豊 2017 ー共感的理解ー無心になる カウンセリング, 49(1), 26-35.
 25. 岡村達也 2017 ファーストメモリーー日本心理臨床学会第3回大会@広島大学 1984/11/23金～25日ー 野島一彦教授日本人間性心理学会学会賞受賞記念冊子, 32-33.
 26. 小野真由子・河崎俊博 2017 国内におけるPerson-Centered Experiential Approachの研究分布図ー学会誌を中心としてー 関西大学心理臨床センター紀要, 8,57-65.
 27. 坂中正義 2017 パーソンセンタード・アプローチの実践家を育てるための視点と提言ー心理臨床家に焦点をあててー 南山大学紀要「アカデミア」人文・自然科学編, 14, 65-90.
 28. 坂中正義 2017 野島先生とのエンカウンター 野島一彦教授日本人間性心理学会学会賞受賞記念冊子, 48-49.
 29. 清水幹夫 2017 問題は成長への宝物 カウンセリング, 49(1), 46-64.
 30. 下田節夫 2017 理論学習 カウンセリング, 49(1), 5-25.
 31. 下田節夫 2017 野島さん（と）のこと 野島一彦教授日本人間性心理学会学会賞受賞記念冊子, 30-31.
 32. 高橋紀子 2017 それでも人生に「Yes」という 野島一彦教授日本人間性心理学会学会賞受賞記念冊子, 72-73.
 33. 田中由美子 2017 三矢さんを囲んで小グループでの話し合い カウンセリング, 49(1), 44-45.
 34. 戸松由希子 2017 精神科病棟でのグループ立ち上げの思い出 野島一彦教授日本人間性心理学会学会賞受賞記念冊子, 70-71.
 35. 横田かほる 2017 傳田容示子さんのグループに参加して カウンセリング, 49(1), 39-40.
 36. 吉岡公美子 2017 学ぶ機会を数多く与えていただいたこと 野島一彦教授

日本人間性心理学会学会賞受賞記念冊子, 54-55.

37. 全日本カウンセリング協議会編 2017 特集：第23回二級カウンセラー研修会 カウンセリング, 49(1), 1-46.
- 第23回二級カウンセラー研修会
理事長あいさつ (石井要子)
理論学習 (下田節夫)
特別ミニ講演—共感的理解—無心になる (小河 豊)
二級資格取得者による体験発表
カール・ロジャーズに学んで (傳田容示子)
傳田容示子さんのグループに参加して (横田かほる)
カール・ロジャーズに学んで (中川松枝)
中川松枝さんを囲んでのグループ学習 (雨宮靖子)
カール・ロジャーズに学んで (三矢幸子)
三矢さんを囲んで小グループでの話し合い (田中由美子)
講演 問題は成長への宝物 (清水幹夫)

C. 学会発表

1. 今堀美樹 2017 竹内愛二の実存主義的アプローチとロジャーズ理論 日本人間性心理学会第36回大会プログラム・発表論文集, 82-83.
2. 泉野淳子 2017 「必要十分条件」論文 (C.R.Rogers, 1957) の再々検討 (その8) ～ロジャーズはアメリカのニーチェである～ 日本心理学会第81回大会プログラム, 67.
3. 金子周平 2017 ヒューマニスティック・アプローチと効果指標としての自己実現—「ありのままの自己肯定」の得点変化の意味— 日本心理臨床学会第36回大会発表論文集, 251.
4. 加藤敬介 2017 リカバリーの視点を心理臨床に取り入れる 日本人間性心理学会第36回大会プログラム・発表論文集, 56-57.
5. 川本静香・中妻拓也・サトウタツヤ 2017 許容できない事象に対する共感の構造線—ロジャーズの共感理論からみた「死にたい」に対する共感の困難さ— 日本パーソナリティ心理学会第26回大会プログラム, 37.
6. 永楽晶子 2017 言いづらいことを打ち明ける体験の研究—自己受容のあり方に着目して— 日本人間性心理学会第36回大会プログラム・発表論文集, 145.
7. 中田行重・斧原 藍・白崎愛里 2017 “パーソン・センタード”とは何か—その輪郭の明確化に向けて(1)— 日本人間性心理学会第36回大会プログラム・発表論文集, 136-137.
8. 日本人間性心理学会 (第36回大会) 2017 自主企画：Presence=Being with=Unconditional positive regardという構造を考える 日本人間性心理学

会第35回大会プログラム・発表論文集, 174-175.

企画者 (高橋寛子)

話題提供者 (村里忠之・高橋寛子)

指定討論者 (吉良安之)

9. 日本人間性心理学会 (第36回大会) 2017 自主企画: 人間性心理学における「認知」の位置づけ—ロジャーズ、ジェンドリン、ケリーを巡って— 日本人間性心理学会第35回大会プログラム・発表論文集, 178-179.
企画者 (菅村玄二・串崎真志)
指定討論者 (中田行重・池見 陽・菅村玄二・串崎真志)
10. 日本心理臨床学会 (第36回大会) 2017 自主シンポジウム: PCA/CCTのgenerativity/wisdomを語る 日本心理臨床学会第36回大会発表論文集, 638.
企画者・司会者 (飯長喜一郎)
話題提供者 (岡村達也・園田雅代・下田節夫)
11. 西野秀一郎 2017 積極的傾聴における自身のカウンセラー体験の再検討—積極的傾聴時のレスポンスに着目して— 日本人間性心理学会第36回大会プログラム・発表論文集, 54-55.
12. 野島一彦 2017 大会準備副委員長講演: カウンセリングの現在、そして、これから (その3) 日本カウンセリング学会第50回記念大会プログラム, 20.
13. 斧原 藍・白崎愛里・中田行重 2017 “ パーソン・センタード ” とは何か—その輪郭の明確化に向けて(2)— 日本人間性心理学会第36回大会プログラム・発表論文集, 80-81.
14. 武田光世 2017 ラビリンス・ウォーク体験の多様性—パーソン・センタード・アプローチの概念に照らして— 日本カウンセリング学会第50回記念大会プログラム, 46.
15. 田中雄大 2017 被共感経験測定尺度の作成 日本人間性心理学会第36回大会プログラム・発表論文集, 146.
16. 脇 晴香 2017 他者の感情に対する敏感性とその個人差についての文献研究 日本人間性心理学会第36回大会プログラム・発表論文集, 147.

D. 翻訳

[該当文献なし]

E. 海外文献紹介

1. 中田行重・秋山有希・大田由佳・大谷絵里・中森涼太・長尾海里 2017 パーソン・センタード・セラピーによるPTSDへの対応と心的外傷後成長についての理論 関西大学心理臨床センター紀要, 8, 89-99.

F. 書評

1. 小林孝雄 2017 ロジャーズの共感的理解の展開—「6条件論文」までとその後— 人間性心理学研究, 3(2), 159-167.
2. 森岡正芳 2017 論評レビュー—特集にあたって— 人間性心理学研究, 34(2), 143.
3. 日本人間性心理学会『人間性心理学研究』編集委員会編 2017 特集：ロジャーズの中核三条件を読む 人間性心理学研究, 34(2), 143-167.
論評レビュー—特集にあたって— (森岡正芳)
「一致」というテーマに関する最適の書 (田中秀男)
共に変わる二者関係としての「受容」「無条件の積極的関心」(野村晴夫)
ロジャーズの共感的理解の展開—「6条件論文」までとその後— (小林孝雄)
4. 野村晴夫 2017 共に変わる二者関係としての「受容」「無条件の積極的関心」 人間性心理学研究, 34(2), 151-157.
5. 田中秀男 2017 「一致」というテーマに関する最適の書 人間性心理学研究, 34(2), 145-149.

付：同リスト（～2016）

「第I部：来談者中心療法・パーソンセンタード・カウンセリング」の追録

A. 書籍

1. 吉良安之 2015 カウンセリング実践の土台づくり —学び始めた人に伝えたい心得・勘どころ・工夫— 岩崎学術出版社
まえがき
第1部 実践の前に考えておくべきこと
第1章 カウンセラーとしての基本姿勢—心理臨床を学ぶ人へ—
第2部 カウンセリングへの導入
第2章 カウンセリングの始め方
第3章 カウンセリングを始める時期の留意点
第3部 カウンセリングの継続と展開
第4章 傾聴を基盤にした関係づくり
第5章 体験内容への働きかけと支え
第6章 言葉による表現とノンバーバルな表出
第7章 内面への向き合い方の諸相と体験様式への働きかけ
第8章 カウンセリングの目標と進行過程
第9章 体験の距離の調整—学生相談の一事例からの示唆
第4部 カウンセラー自身の内面へのまなざし
第10章 カウンセラー自身の「感じ」の整理と活用
第11章 導き手としての暗在的「感じ」—ある物語の考察—

第5部 実践にあたって念頭においてほしいこと

第12章 それぞれの臨床の場について考える—学生相談に関する考察から—

補論 カウンセリング実践に関する覚え書き—まとめに代えて—

B. 研究論文

1. 福井義一・成瀬友貴美 2015 「自分らしくあること」(本来感)と「それを目指すこと」(本来感希求)がストレス反応に及ぼす影響:規定因としての成人愛着の検討 甲南大學紀要 文学編, 165, 199-209.
2. 伊藤研一 2015 ロジャーズは中核条件でなにをめざしたのか—来談者中心療法とフォーカシング、そして心理療法— 学習院大学人文科学研究所「人文」, 14, 149-167.
3. 金原俊輔 2014 ロジャーズ学説に係る疑問と異論および否定的データの展望 臨床心理学研究, 52(1).
4. 金原俊輔 2014 カール・ロジャーズとB・F・スキナーが1956年におこなった討論に関する研究 長崎ウエスレヤン大学『現代社会学部紀要』, 12(1).
5. 金原俊輔 2014 ロジャーズとプロテスタンティズム:産業カウンセリングに関連する問題点も含めて 日本産業カウンセラー協会『産業カウンセリング』, 314.
6. 金原俊輔 2015 カウンセリング・マインドという概念および態度が日本の生徒指導や教育相談へ与えた影響—主に問題点に関して— 長崎ウエスレヤン大学地域総合研究所研究紀要, 13(1), 1-12.
7. 久羽 康 2013 セラピーにおける他者性についての現象学的考察 心理臨床学研究, 31(3), 376-386.
8. 九州大学こころとそだちの相談室「こだち News」事務局編 2012 こだち設立五周年記念氏原寛先生講演会 九州大学こころとそだちの相談室「こだち News」, 10, 2.
9. 西野秀一郎 2016 大学院授業における「積極的傾聴」の実習体験報告と考察 跡見学園女子大学文学部臨床心理学科紀要, 5, 77-83.
10. 岡本智子 1996 プレイセラピーにおける受容の限界と攻撃性の変容 心理臨床学研究, 14(2), 173-184.
11. 小野 修 2006 対人援助者成長の一方法 人間性心理学研究, 24(2), 13-22.
12. 嶋田弘人 2012 カウンセリングにおけるreflectionの援助的効果についての研究 和歌山県教育センター研究紀要, 2011年度, 48-58.
13. 田中伸明 2008 応答交換構造からみた共感のプロセスの特徴 心理臨床学研究, 25(6), 682-691.
14. 上嶋洋一 2014 精神科医ブレギンの治療理論における共感概念の検討 都留文科大学研究紀要, 79, 27-41.

15. 山内志保 2008 統合的心理療法におけるセラピストの現前性と自己開示に関する一考察 心理臨床学研究, 34(1), 63-72.

C. 学会発表

[該当文献なし]

D. 翻訳

[該当文献なし]

E. 海外文献紹介

[該当文献なし]

F. 書評

1. 九州大学こころとそだちの相談室「こだち News」事務局編 2012「野島一彦監修吉岡久美子・本山智敬編 2012『心理臨床のフロンティア—若手臨床家の多様な実践と成長—』創元社」九州大学こころとそだちの相談室「こだち News」, 11, 4.
2. 九州大学こころとそだちの相談室「こだち News」事務局編 2015「吉良安之 2015『カウンセリング実践の土台づくり—学び始めた人に伝えたい 心得・勘どころ・工夫—』岩崎学術出版社」九州大学こころとそだちの相談室「こだち News」, 23, 4.
3. 九州大学こころとそだちの相談室「こだち News」事務局編 2015「村山正治監修本山智敬・坂中正義・三國牧子編 2015『ロジャーズの中核三条件一致—カウンセリングの本質を考える—』創元社」九州大学こころとそだちの相談室「こだち News」, 25, 4.

第Ⅱ部：体験過程療法・フォーカシング指向心理療法

「第Ⅱ部：フォーカシング指向心理療法・体験過程療法」には関連文献のうち、体験過程療法やフォーカシング、フォーカシング指向心理療法、「体験過程」「フェルトセンス」「シフト」などの基礎概念、歴史、人物等が論じられているものを収録した。

2017年の概要は次のとおりである。「A. 書籍」はなかった。「B. 研究論文」は70本で、そのうち3つが特集であった。「C. 学会発表」は36本で、そのうち4つがシンポジウムであった。「D. 翻訳」は5本であった。「E. 海外文献紹介」は1本であった。「F. 書評」は2本であった。

2017年における「体験過程療法・フォーカシング指向心理療法」の特徴は、ジェンドリン追悼特集であるB-31、B-32、第1回アジア・フォーカシング国際

会議特集のB-33が刊行されたことであろう。

ジェンドリンは2017年5月1日に90歳で亡くなった。B-31、B-32は追悼特集である。2号にわたり、多くの人が氏への想いや思い出をよせている。このことから彼が、わが国においても多大な影響を与えたことが伺える。謹んで哀悼の意を表する。

第1回アジア・フォーカシング国際会議は8月25日～27日神戸で開催された。そこで多くの発表がなされ、学会発表にあがっている文献の多くはこの会議でのものである。B-33はその代表として取り上げている。会議中には日本フォーカシング協会20周年記念行事も行われた。ジェンドリンの「体験過程と心理療法（1966年）」の翻訳刊行あたりが日本におけるフォーカシング黎明期であり、「フォーカシング（1982年）」の翻訳、フォーカシング・フォーラム、と徐々に培われたものが、日本フォーカシング協会ニュースレター「The Focuser's Focus」を中心とした20年で質、量ともに大いに花開いてきたといえよう。その豊かさが、この会議での発表から伺える。

なお、2017年は「心理臨床学研究」に5本（B-13、B-23、B-65、F-1、F-2）、「人間性心理学研究」に2本（B-19、B-46）、関連文献が掲載された。また、「体験過程療法・フォーカシング指向心理療法」の文献は、日本フォーカシング協会ニュースレター「The Focuser's Focus」にコンスタントに発表されている。

A. 書籍

〔該当文献なし〕

B. 研究論文

1. 阿部利恵 2017 ミニミニ実践報告：フォーカシングの大海をわたる The Focuser's Focus, 20(3), 28.
2. 赤森昭代 2017 導かれた新たな世界—井上先生によって— The Focuser's Focus, 20(1), 10-11.
3. 天海道子 2017 超びっとフォーカシング：ちょっと一息！ The Focuser's Focus, 20(2), 18.
4. 阿世賀浩一郎 2017 Skypeを用いたネット・フォーカシングへの誘い The Focuser's Focus, 20(1), 19.
5. 古澤泰江 2017 JCFA 子どもとフォーカシング：マルタとインゼのワークショップを思い出して The Focuser's Focus, 20(2), 12-13.
6. 二橋曜子 2017 ジェンドリンからのメッセージ The Focuser's Focus, 20(3), 15-16.
7. 蓮沼友子 2017 追悼文 The Focuser's Focus, 20(1), 13.
8. 堀尾直美 2017 日本フォーカシング協会 発足20周年記念行事 報告 The Focuser's Focus, 20(3), 21.

9. 池見 陽 2017 アジア・フォーカシング国際会議 (AFIC) へのいざない (第2報) The Focuser's Focus, 19(4), 2-6.
10. 池見 陽 2017 アジア・フォーカシング国際会議 (AFIC) へのいざない (第3報) The Focuser's Focus, 20(1), 3-8.
11. 池見 陽編 2017 第1回アジア・フォーカシング国際会議 (AFIC) を終えて<御礼報> The Focuser's Focus, 20(3), 7-15.
12. 石井栄子・小山孝子 2017 超びっとフォーカシング：セリフを増やそう The Focuser's Focus, 20(1), 22.
13. 石倉 篤 2017 Tグループにおける他者との関わりを通じた体験過程の進展心理臨床学研究, 35(3), 278-289.
14. 石倉 篤・中田行重 2017 セラピストによる情動調律とフォーカシング—言葉の内容のみでは分かり合い難い自閉症児との遊戯療法の文脈で— 関西大学心理臨床センター紀要, 8, 67-77.
15. 伊藤三枝子 2017 インタラクティブ・フォーカシング・レベル2・ワークショップの感想 The Focuser's Focus, 20(1), 20.
16. J.N. 2017 フォーカシングワークショップに参加しての感想 The Focuser's Focus, 20(3), 27.
17. 小池順子 2017 超びっとフォーカシング：変幻自在のフォーカシング～すである力を活かす～ The Focuser's Focus, 20(3), 23-24.
18. 越川陽介 2017 研究者の数珠つなぎ：Work Place Drawingを用いた職場・コミュニティとのフォーカシング：わたしと職場とフォーカシング The Focuser's Focus, 20(1), 15-18.
19. 久羽 康 2017 主体—対象の可変的境界としての象徴化—Gendlinの機能的関係理論の批判的検討— 人間性心理学研究, 35(1), 37-47.
20. 前田満寿美・伊藤三枝子 2017 インタラクティブ・フォーカシング アジア・フォーカシング国際会議 (AFIC) プログラム
21. 三木健郎 2017 研究者の数珠つなぎ：保護者と子どもとフォーカシング～薫習のころ～ The Focuser's Focus, 20(2), 13-16.
22. 光岡真弓 2017 アジア国際会議に参加して The Focuser's Focus, 20(3), 15.
23. 宮田周平 2017 Clearing a spaceをうつ病のクライアントに適應するための工夫 心理臨床学研究, 35(1), 50-60.
24. 望月秋一 2017 人生の分岐点に出会ったジェンドリン 喪の想い The Focuser's Focus, 20(3), 2-4.
25. 望月秋一 2017 戸隠「夏のリトリート」フォーカシング & PCAカウンセリング・ワーク2017—トラウマの癒しとマインドフルネス—<ふり返りと感想> The Focuser's Focus, 20(3), 25-26.
26. 村里忠之 2017 ジェンドリンとメアリーの思い出 The Focuser's Focus,

- 20(3), 2-4.
27. 村山正治 2017 弔辞 The Focuser's Focus, 20(1), 9.
28. 中埜充保 2017 戸隠ワークショップに参加して The Focuser's Focus, 20(3), 26.
29. 中村匡男 2017 インタラクティブ・フォーカシングレベル2に参加して The Focuser's Fo-cus, 20(1), 20-21.
30. 中西一恵 2017 デヴィッド・ローム「フォーカシングと瞑想：共通点、相違点と相乗効果」 The Focuser's Focus, 20(3), 16.
31. 日本フォーカシング協会編 2017 ジェンドリン氏追悼特集 The Focuser's Focus, 20(2), 2-7.
 ジェンドリンと私 (末武康弘)
 ジェンドリン氏への追悼文 (大田民雄)
 Eugene T. Gendlinの死に接して思うこと (筒井健雄)
32. 日本フォーカシング協会編 2017 特集：ジェンドリン氏追悼 The Focuser's Focus, 20(3), 2-7.
 ジェンドリンとメアリーの思い出 (村里忠之)
 人生の分岐点に出会ったジェンドリン 喪の想い (望月秋一)
 ジェンドリンの羽に触れて (大迫久美恵)
 追悼文 (田邊 裕)
 追悼文 (笹田晃子)
 Thank You Gene ! (寄せ書き)
33. 日本フォーカシング協会編 2017 特集：「第1回アジア・フォーカシング国際会議」報告と感想 The Focuser's Focus, 20(3), 7-20.
 第1回アジア・フォーカシング国際会議 (AFIC) を終えて<御礼報> (池見 陽編)
 AFIC参加者の感想
 アジア国際会議員参加して (光岡眞弓)
 ジェンドリンからのメッセージ (二橋曜子)
 デヴィッド・ローム「フォーカシングと瞑想：共通点、相違点と相乗効果」 (中西一恵)
 「コルビーを体験してみよう」感想 (大原恵美)
 「働くあなた」の大事な事は？：ポジティブメンタルヘルスのためのフォーカシングに参加して (田邊 裕)
 フォーカシングとアジアの交差 (高瀬健一)
 3.11とフォーカシングⅦに参加して「忘れないで!!」ということ (鈴木茂子)
 『3.11とフォーカシング7』 (大迫久美恵・小池順子・笹田晃子)
 アジア・フォーカシング国際会議「3.11とフォーカシング、そして“・・・”Ⅶ」の体験 (エイモス・C.Y.チェン)

日本フォーカシング協会 発足20周年記念行事 報告 (堀尾直美)

34. 仁田公子 2017 戸隠で感じた「いのち」のつながり～祈りと感謝をこめて～ The Focuser's Focus, 20(3), 27.
35. 野田侑希 2017 愛着スタイルに対する粘度フォーカシングの影響についての検討— 家族関係に着目して— 東亜臨床心理学研究, 16, 74-75.
36. 野田侑希 2017 愛着スタイルに対する粘度フォーカシングの影響についての検討— 家族関係に着目して— 東亜大学大学院総合学術研究科修士論文
37. 野村喜三枝 2017 井上澄子先生がくださったもの The Focuser's Focus, 20(1), 12.
38. 小田大輔 2017 超びっとフォーカシング：高校生と話した時間 The Focuser's Focus, 19(4), 10.
39. 大原恵美 2017 「コルビーを体験してみよう」感想 The Focuser's Focus, 20(3), 17.
40. 大迫久美恵 2017 ジェンドリンの羽に触れて The Focuser's Focus, 20(3), 5.
41. 大迫久美恵・小池順子・笹田晃子 2017 『3.11とフォーカシング7』 The Focuser's Focus, 20(3), 19-20.
42. 大澤美枝子 世界のフォーカシング (13) 日本のフォーカシング The Focuser's Focus, 20(2), 19-23.
43. 大澤美枝子 2017 Ann Weiser CornellとAnne Rogersのこと The Focuser's Focus, 20(3), 32-33.
44. 大田民雄 2017 ジェンドリン氏への追悼文 The Focuser's Focus, 20(2), 3.
45. 大月かおり 2017 戸隠「夏のリトリート」フォーカシング & PCAカウンセリング・ワークの感想 The Focuser's Focus, 20(3), 26.
46. 岡村心平 2017 交差と創造性—新たな理解を生み出す思考方法— 人間性心理学研究, 35(1), 89-100.
47. 大沢直美 2017 NPOセスクでの井上澄子先生の足跡 The Focuser's Focus, 20(1), 11.
48. 酒井久実代 2017 池見陽先生の理論セミナー@東京に参加して The Focuser's Focus, 20(2), 16.
49. 笹田晃子 2017 追悼文 The Focuser's Focus, 20(3), 6.
50. 笹田晃子 2017 JCFA 子どもとフォーカシング：“心の天気”について改めて考えてみた：3つの機能の視点から The Focuser's Focus, 20(3), 29.
51. 重松初代香 2017 フォーカサー初心者とリスナー初心者のペア・フォーカシング体験とその変化の考察—2事例による検討— 東亜大学大学院総合学術研究科修士論文
52. 重松初代香 2017 フォーカサー初心者とリスナー初心者のペア・フォーカシング体験とその変化の考察—2事例による検討— 東亜臨床心理学研究,

- 16, 68-69.
53. 白岩紘子 2017 JCFA 子どもとフォーカシング：乳幼児・児童虐待の過程支援の現状とその研修 The Focuser's Focus, 19(4), 6-7.
 54. 白岩紘子 2017 井上澄子さんを偲んで The Focuser's Focus, 20(1), 9-10.
 55. 宗崎知子 2017 インタラクティブ・フォーカシングレベル2に参加して The Focuser's Focus, 20(1), 20.
 56. 末武康弘 2017 ジェンドリンと私 The Focuser's Focus, 20(2), 2-3.
 57. 鈴木主真 2017 井上先生へ The Focuser's Focus, 20(1), 12.
 58. 鈴木茂子 2017 3.11とフォーカシングⅦに参加して「忘れないで!!」ということ The Focuser's Focus, 20(3), 18-19.
 59. 高田宣明 2017 追悼文 The Focuser's Focus, 20(1), 13-14.
 60. 高瀬健一 2017 フォーカシングとアジアの交差 The Focuser's Focus, 20(3), 17-18.
 61. 田邊 裕 2017 追悼文 The Focuser's Focus, 20(3), 6.
 62. 田邊 裕 2017 「働くあなた」の大事な事は? : ポジティブメンタルヘルスのためのフォーカシングに参加して The Focuser's Focus, 20(3), 17.
 63. 土江正司 2017 霊魂=フェルトセンス? The Focuser's Focus, 20(1), 19-20.
 64. 筒井健雄 2017 Eugene T. Gendlinの死に接して思うこと The Focuser's Focus, 20(2), 3-7.
 65. 内田利広 2017 外傷体験をもつ青年期女性に対するフォーカシング指向心理療法—フェルトセンスと直接的なりファアの視点から— 心理臨床学研究, 35(2), 180-191.
 66. 上村英生 2017 ジェンドリンの死を悼む The Focuser's Focus, 20(1), 2.
 67. 山下和彦 2017 人との関係で癒し、癒やされるインタラクティブフォーカシング The Focuser's Focus, 20(1), 21.
 68. 矢野キエ 2017 JCFA 子どもとフォーカシング：出会いの瞬間 The Focuser's Focus, 20(1), 18.
 69. 矢野キエ・小松真佐子 2017 “こども”を語ろう フォーカシング・カフェはどんな味? The Focuser's Focus, 20(2), 17.
 70. 横地容子 2017 安心・安全・平等は自分で作り、感性を信じる The Focuser's Focus, 20(3), 27.

C. 学会発表

1. 土井晶子 2017 「働くあなた」の大事なことは? : ポジティブメンタルヘルスのためのフォーカシング アジア・フォーカシング国際会議 (AFIC) プログラム
2. 平野智子 2017 クライアント・セラピスト・治療関係のあたらしい理解を生

- みだすセラピストのためのフォーカシング アジア・フォーカシング国際会議 (AFIC) プログラム
3. 星加博之 2017 クロノ・フォーカシングの可能性を探る 日本人間性心理学会第36回大会プログラム・発表論文集, 110-111.
 4. 池見 陽 2017 フォーカシングの基本原理：追体験と交差 アジア・フォーカシング国際会議 (AFIC) プログラム
 5. 池見 陽 2017 観我フォーカシング：出現してくる我たちを観察して慈悲をおくるフォーカシング アジア・フォーカシング国際会議 (AFIC) プログラム
 6. 石倉 篤 2017 Tグループにおいて「自己探求」が深まった体験と深まらなかった体験との比較 日本人間性心理学会第36回大会プログラム・発表論文集, 48-49.
 7. 伊藤研一・西澤善子 2017 主体から切り離された身体感覚と主体とつながった身体感覚 (フェルト・センス) 日本人間性心理学会第36回大会プログラム・発表論文集, 78-79.
 8. 河崎俊博・福盛英明・永野浩二・青木 剛・酒井久実代・森川友子・上西裕之・朱恩宣・シン・ソルエ・キム・ピョンスン・キム・ジュヨン 2017 FMS研究のこれから アジア・フォーカシング国際会議 (AFIC) プログラム
 9. 吉良安之・村里忠之 2017 セラピストがフォーカシング体験を積むことは心理療法を深める アジア・フォーカシング国際会議 (AFIC) プログラム
 10. 小松原智子 2017 自己理解の姿勢を育む フォーカシング的アプローチを活かしたキャリア教育の実践 日本人間性心理学会第36回大会プログラム・発表論文集, 130-131.
 11. 小坂淑子・吉澤弘明・岸本沙良 2017 コルビーを体験しよう アジア・フォーカシング国際会議 (AFIC) プログラム
 12. 三宅麻希 2017 問いかけのためのことばを探る；新しい理解が訪れるとき問いかけはどのように機能するか アジア・フォーカシング国際会議 (AFIC) プログラム
 13. 宮田周平 2017 うつ病のクライアントのためのClearing A Space アジア・フォーカシング国際会議 (AFIC) プログラム
 14. 森川友子・中山 幸・江崎忠枝・舎川優悟 2017 身体の不調へのフォーカシング アジア・フォーカシング国際会議 (AFIC) プログラム
 15. 日本人間性心理学会 (第36回大会) 2017 自主企画：体験過程流カラージュワークの逐語記録を体験過程理論から読み解く 日本人間性心理学会第35回大会プログラム・発表論文集, 160-161.
 企画者 (矢野キエ)
 話題提供者 (三村尚彦・矢野キエ)
 16. 日本人間性心理学会 (第36回大会) 2017 自主企画：スーパービジョンに持

ち込まれる多層的対人関係 日本人間性心理学会第35回大会プログラム・発表論文集, 162-163.

発表者 (伊藤研一・小林孝雄・真澄 徹)

17. 日本人間性心理学会 (第36回大会) 2017 自主企画: 主体としてのからだから見た「話を聴く」とは一人と向かって自分は何を感じどう動きたくなるか: ことばの持つ力— 日本人間性心理学会第35回大会プログラム・発表論文集, 170-171.

企画者 (春日作太郎)

コメンテーター (上嶋洋一・三好哲司)

18. 日本人間性心理学会 (第36回大会) 2017 自主企画: フォーカシング指向心理療法におけるケース理解の視点—事例の理解につながる概念の検討— 日本人間性心理学会第35回大会プログラム・発表論文集, 172-173.

企画者 (内田利広)

司会・進行 (田中秀男)

事例提供者 (小泉隆平)

指定討論者 (星加博之・青木 剛・内田利広)

19. 西澤善子 2017 ボディマッサージがフォーカシング的体験様式の日常化に及ぼす影響 臨床心理士編 日本人間性心理学会第36回大会プログラム・発表論文集, 154.

20. 大迫久美恵・小池順子・笹田晃子 2017 3.11とフォーカシング VII アジア・フォーカシング国際会議 (AFIC) プログラム

21. 岡村心平 2017 なぞかけフォーカシングからリスニングの“コツ”を理解する アジア・フォーカシング国際会議 (AFIC) プログラム

22. 岡村心平・阪本久実子・越川陽介 2017 「自分を動物に喩えるワーク」から見るリスニングの特徴についての一考察 日本人間性心理学会第36回大会プログラム・発表論文集, 96-97.

23. 押江 隆 2017 挫折体験のストレス評価と問題意識性、フォーカシング的態度および外傷後成長との関連の検討 日本心理臨床学会第36回大会発表論文集, 503.

24. 押江 隆・山根倫也・坂本和久・玖村奈美 2017 体験過程スケールによるリフレキシブ PCAGIP のプロセス研究 日本人間性心理学会第36回大会プログラム・発表論文集, 90-91.

25. 酒井久実代・河崎俊博 2017 振り返り日記が精神的健康と本来性に及ぼす影響の検討 日本人間性心理学会第36回大会プログラム・発表論文集, 156.

26. 鈴木淑元 2017 フォーカシング (瞑想) 体験によるストレス性の身体症状からの回復 日本心理臨床学会第36回大会発表論文集, 46.

27. 土江正司 2017 フォーカシング・サンガ: フォーカシング指向グループ アジア・フォーカシング国際会議 (AFIC) プログラム

28. 筒井優介・狹間美佳・橋場優子 2017 フォーカシング指向アートセラピーの集団における実践 ―就労支援と教育の現場から― 日本人間性心理学会第36回大会プログラム・発表論文集, 98-99.
29. 内田利広 2017 家族のために生きてきた中年女性との面接 フォーカシング指向心理療法における Th の介入をめぐる 日本人間性心理学会第36回大会プログラム・発表論文集, 58-59.
30. 山地弘起 2017 マインドフルネス、セルフ・コンパッション、フォーカシングの尺度間の関連 日本心理学会第81回大会プログラム, 67.
31. 山田美穂 2017 フォーカシングとダンスムーブメントセラピー：その響き合いを探る アジア・フォーカシング国際会議 (AFIC) プログラム
32. 山本誠司・有村靖子 2017 フォーカシング指向ゲシュタルト療法 アジア・フォーカシング国際会議 (AFIC) プログラム
33. 山崎 暁 2017 フォーカシングを指向するセラピストに生まれるクライアント理解の意味と作用―日常生活上に健忘を残すクライアントが記憶の連続線を取り戻すまで― 日本心理臨床学会第36回大会発表論文集, 37.
34. 山崎 暁 2017 かかわり合いを息づかせるフォーカシング 日本人間性心理学会第36回大会プログラム・発表論文集, 34-36.
35. 矢野キエ・小泉隆平・三木健郎 2017 こどもとの関わりのなかで、こどもフォーカシングをどのように生かせるか アジア・フォーカシング国際会議 (AFIC) プログラム
36. 吉原 啓 2017 フォーカシングに基づくメンタルトレーニングプログラムによる心理的競技能力の向上 日本人間性心理学会第36回大会プログラム・発表論文集, 110-111.

D. 翻訳

1. エイモス・C.Y.チェン (大迫久美恵・大澤美枝子訳) 2017 アジア・フォーカシング国際会議「3.11とフォーカシング、そして“・・・”Ⅶ」の体験 The Focuser's Focus, 20(3), 20.
2. Callsen, C. & Hurst, L. (山本美保訳) 2017 世界のフォーカシング(14) ニューヨーク・メトロ・フォーカシング：新たに成長し続けるフォーカシング・コミュニティ The Focuser's Focus, 20(3), 30-31.
3. Gendlin, E. T. 2013 Arakawa and Gins : The Organism-Person-Environment Process. (岡村心平 2017 アラカワ+ギンズ：有機体-人間-環境プロセス. ユージン・ジェンドリン 関西大学東西学術研究所紀要, 50, 381-393.)
4. Kraft, C. (仁田公子訳) 2017 世界のフォーカシング (11) 私の“フォーカシング”人生 The Focuser's Focus, 19(4), 11-13.
5. パールステイン, A (小坂淑子訳) 2017 世界のフォーカシング (12) フォーカシングについての個人的な話とイスラエルにおける発展 The Focuser's

E. 海外文献紹介

1. Omidian, P. 2017 Reaching Resilience: A Training Manual for Community Well-ness. Createspace Independent Publishing Platform. (山本美保 2017 レジリエンスを手に入れるには：コミュニティ・ウェルネス・フォーカシングのためのトレーニングマニュアル, The Focuser's Focus, 20(3), 25.)

F. 書評

1. 土井晶子 2017「森川友子編 2015『フォーカシング健康法—こころとからだに遊ぶ創作ワーク集—』誠信書房」心理臨床学研究, 35(1), 101-102.
2. 岡田敦史 2017「デヴィッド・I・ローム著（日笠摩子・高瀬健一訳）2016『マインドフル・フォーカシング—身体は答えを知っている—』創元社」心理臨床学研究, 34(6), 676-677.

付：同リスト（～2016）

「第Ⅱ部：体験過程療法・フォーカシング指向心理療法」の追録

A. 書籍

1. 三村尚彦 2015 体験を問いつづける哲学 第1巻 初期ジェンドリン哲学と体験過程理論 特定非営利活動法人ratik
序章
第1章 ジェンドリン哲学の起源
第2章 『体験過程と意味の創造』(ECM)の概要
第3章 フェルトセンス、感じられた意味とは何か
第4章 フェルトセンスとシンボル化の機能的関係
第5章 感じられた意味の多様な規定と論理的規定
第6章 哲学原理としてのIOFI原理
第7章 体験過程理論の適用
結びに代えて—総括と次巻の予告—

B. 研究論文

1. 原口芳明 2005 フェルトセンスとの関わり方—間をおく, 一緒にいる, からだで表現する, からだ全体で味わう— 愛知教育大学研究報告 教育科学, 54, 69-76.
2. 伊藤義美 2002 付箋紙を用いたフォーカシングの空間づくり(2) 名古屋大学情報文化学部・大学院人間情報学研究科「情報文化研究」, 15, 157-168.
3. 伊藤研一 2004 集団場面における臨床動作法とフォーカシング実習の効果

- (その2) 学習院大学文学部研究年報, 51, 159-173
4. 伊藤研一 2005 集団施行による臨床動作法とフォーカシング実習の効果(その3) 学習院大学文学部研究年報, 52, 195-207.
 5. 伊藤研一・藤森 進 2002 集団場面における臨床動作法とフォーカシング実習の効果 文教大学臨床相談研究所紀要, 6, 41-46.
 6. 河崎俊博 2015 相互リフレキシブな営みと「からだ」 関西大学臨床心理専門職大学院紀要「サイコロジスト」, 5, 101-108.
 7. 小泉隆平 2015 フォーカシング指向心理療法の一技法としての“Thinking About”の理論と臨床— 名古屋大学博士論文
 8. 桑野裕子 2011 心の健康を助ける「フォーカシング」～私のフォーカシング体験～ 東亜大学紀要, 13, 43-48.
 9. 桑野浩明 2013 フォーカシングの実践的活用を巡る幾つかの整理と臨床適用に関する一考察～「体験変化」に導く径路の質的相違からの考察～ 東亜大学大学院総合学術研究科「心理臨床研究」, 13, 37-44.
 10. 桑野浩明・桑野裕子・上岡由香・石川倫加・井上真理・中山幸輝・古野 薫・北田朋子・中村加奈 2012 フォーカシング研究会 活動報告 東亜大学大学院総合学術研究科「心理臨床研究」, 13, 89-93.
 11. 増井武士 1987 症状に対する患者の適切な努力 心理臨床学研究, 4(2), 18-34.
 12. 増井武士 1999 自閉的な分裂病の治療面接における一つの統合の試み 心理臨床学研究, 17(4), 321-332.
 13. 三村尚彦 2009 ジェンドリンとポストモダニズム—プロセスの論理— 関西大学文学論集, 59(3).
 14. 三村尚彦 2009 ジェンドリンとフッサール—進展 (carrying forward) の現象学— デイルタイ研究, 20, 63-79.
 15. 三村尚彦 2011 そこにあって、そこにはないもの—ジェンドリンが提唱する新しい現象学— フッサール研究会「フッサール研究」, 9, 15-27.
 16. 三村尚彦 2011 普遍性と個別事例 ジェンドリンのIOFI原理と体験分析
 17. 三村尚彦 2011 ジェンドリンにおける「一人称プロセス」
 18. 三村尚彦 2012 追体験によって、何がどのように体験されるのか—デイルタイとジェンドリン— 関西大学文学論集, 62(2).
 19. 三村尚彦 2013 ジェンドリン哲学におけるIOFI原理の考察 関西大学文学論集, 62(4).
 20. 三村尚彦 2013 質的研究とTAE (Thinking At the Edge) —ジェンドリン哲学にもとづいて—
 21. 斉藤恵里 2005 イメージ呼吸収納法の効果に関する研究—日常のフォーカシング的態度, 呼吸の仕方・イメージの浮かび方などとの関わりを中心に— 北海道浅井学園大学大学院人間福祉学研究科修士論文

22. 阪本久実子・西森 臨・山岡麻美・米持有紀子・池見 陽 2016「青空フォーカシング」の方法論的特色とその背景について 関西大学臨床心理専門職大学院紀要「サイコロジスト」, 6, 47-55.
23. 桜本洋樹 2010 我が国におけるフォーカシング指向心理療法のこれまでの展開と今後の展望についての一試論 明治大学大学院文学研究論集, 33, 173-182.
24. 田中秀男 2016 ジェンドリンの心理療法研究における過程変数 関西大学大学院心理学研究科「心理学叢誌」, 16, 105-111.
25. 田中秀男・池見 陽 2016 フォーカシング創成期の2つの流れ—体験過程尺度とフォーカシング教示法の源流— 関西大学臨床心理専門職大学院紀要「サイコロジスト」, 6, 9-17.
26. 山岡麻美・米持有紀子・西森 臨・阪本久実子・池見 陽 2016 青空フォーカシングの体験記述と状態不安低減効果の検討 関西大学臨床心理専門職大学院紀要「サイコロジスト」, 6, 57-66.

C. 学会発表

1. 三村尚彦 2010 志向的含蓄と体験過程—フォーカシングという現象学—
2. 三村尚彦 2010 深いフォーカシング理解のためのジェンドリン哲学
3. 三村尚彦 2010 ジェンドリン—心理学と哲学のコラボレーション—
4. 三村尚彦 2011 フェルトセンスはどこまで身体的なのか—ジェンドリンとウィトゲンシュタイン—
5. 三村尚彦 2011 記述的分析的心理学と体験過程理論—ジェンドリンがディルタイから継承したもの—
6. 三村尚彦 2011 哲学者としてのジェンドリン—継承と発展—
7. 三村尚彦 2012 ジェンドリン哲学と認知科学—フォーカシング指向現象学の射程—
8. 三村尚彦 2012 フォーカシング指向現象学の可能性
9. 三村尚彦 2013 心理学の哲学あるいは認知科学の哲学—フッサール、ハイデガー、ジェンドリン—

D. 翻訳

〔該当文献なし〕

E. 海外文献紹介

〔該当文献なし〕

F. 書評

1. 関西大学哲学会編 2015「三村尚彦 2015『体験を問いつづける哲学』 第1

卷 初期ジェンドリン哲学と体験過程理論』特定非営利活動法人ratik』 関西大学哲学会の機関誌『哲学』

- 九州大学こころとそだちの相談室「こだち News」事務局編 2011「吉良安之 2010『セラピスト・フォーカシング—臨床体験を吟味し心理療法に活かす—』岩崎学術出版社」九州大学こころとそだちの相談室「こだち News」, 7, 4.

第Ⅲ部：ベーシック・エンカウンター・グループ

「第Ⅲ部：ベーシック・エンカウンター・グループ」には関連文献のうち、ベーシック・エンカウンター・グループ、パーソン・センタード・アプローチなどの来談者中心のオリエンテーションにもとづくグループ・アプローチ、「ファミリーーター」「グループ・プロセス」などの基礎概念、歴史、人物等が論じられているものを収録した⁵。

2017年の概要は次のとおりである。「A. 書籍」はなかった。「B. 研究論文」は19本であった。「C. 学会発表」は12本で、そのうち2つがシンポジウムであった。「D. 翻訳」はなかった。「E. 海外文献紹介」はなかった。「F. 書評」はなかった。

2017年における「ベーシック・エンカウンター・グループ」の特徴は、ロールシャッハ・テストからみたエンカウンター・グループの効果について検討したB-15が刊行されたことであろう。従来の効果研究がEG共通の効果の検討を志向し、メンバーがなかば自覚的なそれを確認してきたのに対し、個人特有の効果の検討を志向し、無意識を含めた総合的な視点から効果を検討した意欲的な研究である。このような視点からの効果研究はこれまであまりなされておらず、貴重な研究といえよう。

なお、2017年は「心理臨床学研究」に1本 (B-15)、関連文献が掲載された。

A. 書籍

〔該当文献なし〕

B. 研究論文

- 相澤亮雄・衛藤春菜・上野愛可・吉田由美・尾崎仁美・重松初代香・村山正治 2017 看護学生の入学初期に実施した1泊2日のPCAグループの効果測定—PCAグループの学級集団形成尺度による検討— 東亜大学大学院心理臨床研究, 16, 13-19.
- 板東充彦 2017 大学生活を通じて教わったグループ・アプローチ 野島一

⁵ なお、体験過程療法に特化したグループ・カウンセリングは、第Ⅱ部へ収録されている。

- 彦教授日本人間性心理学会学会賞受賞記念冊子, 58-59.
3. 市川実咲 2017 ベーシック・エンカウンター・グループ体験の報告と考察 跡見学園女子大学附属心理教育相談所紀要, 13, 137-144.
 4. 今井美穂 2017 半構成方式エンカウンター・グループ体験における心理的効果の研究—SD法・レジリエンス尺度を用いて— 跡見学園女子大学附属心理教育相談所紀要, 13, 77-89.
 5. 稲尾菜月 2017 社会規定的完全主義に対するPCAエクササイズの効果の検討 東亜臨床心理学研究, 16, 62-63.
 6. 稲尾菜月 2017 社会規定的完全主義に対するPCAエクササイズの効果の検討 東亜大学大学院総合学術研究科修士論文
 7. 金子周平 2017 ファシリテーターの自己紹介のコツ、再考 野島一彦教授日本人間性心理学会学会賞受賞記念冊子, 74-75.
 8. 菊川紗希 2017 ベーシック・エンカウンター・グループ参加体験報告—心の変容と考察— 跡見学園女子大学文学部臨床心理学科紀要, 5, 15-22.
 9. 神野 文 2017 エンカウンター・グループを学んだ時間を振り返って 野島一彦教授日本人間性心理学会学会賞受賞記念冊子, 62-63.
 10. 宮本純子 2017 野島先生から学んだグループの応用 野島一彦教授日本人間性心理学会学会賞受賞記念冊子, 78-79.
 11. 野島一彦・下田節夫他 2017 “個人臨床”と“グループ臨床”について語り合う 跡見学園女子大学文学部臨床心理学科紀要, 5, 45-61.
 12. 宮崎圭子 2017 野島先生：グループを通して 野島一彦教授日本人間性心理学会学会賞受賞記念冊子, 34-35.
 13. 森本文子 2017 野島先生とのラージ・エンカウンター・グループの思い出 野島一彦教授日本人間性心理学会学会賞受賞記念冊子, 64-65.
 14. 杉浦崇仁・吉野 薫・村上恵子・北田朋子・中山幸輝・上岡由香・吉持慕香・村山正治 2017 「PCAグループ」及び「PCAGIP法」に関する文献リスト (2016) 東亜臨床心理学研究, 16, 51-59.
 15. 鈴木研司・平山栄治 2017 ロールシャッハ・テストから見たエンカウンター・グループ効果に関する事例研究 心理臨床学研究, 34(6), 592-603.
 16. 高松 里 2017 野島先生と留学生 野島一彦教授日本人間性心理学会学会賞受賞記念冊子, 52-53.
 17. 谷澤祐子 2017 野島先生とのエンカウンター・グループの思い出 野島一彦教授日本人間性心理学会学会賞受賞記念冊子, 66-67.
 18. 筒井優介 2017 夢PCAGIPの試み—グループにおける相互作用の活用— 関西大学臨床心理専門職大学院紀要「サイコロジスト」, 5, 73-81.
 19. 山口祐子 2017 グループを通しての学び in 九大 野島一彦教授日本人間性心理学会学会賞受賞記念冊子, 60-61.

C. 学会発表

1. 今井美穂 2017 半構成方式エンカウンター・グループによる心理的効果の研究 日本人間性心理学会第36回大会プログラム・発表論文集, 46-47.
2. 金子周平・白井祐浩 2017 グループ・ファシリテーターの成長に関する効果測定尺度の作成 日本人間性心理学会第36回大会プログラム・発表論文集, 152.
3. 木場典子・古賀なな子・山田悠未・中原千晶・金子周平 2017 ファシリテーター養成の効果検証—構成的グループの基礎訓練— 日本人間性心理学会第36回大会プログラム・発表論文集, 151.
4. 清澤亜希子 2017 ベーシック・エンカウンター・グループが対人援助の在り方に与える影響 日本人間性心理学会第36回大会プログラム・発表論文集, 84-85.
5. 三國牧子・福盛英明・山田俊介・高崎 彩 2017 宿泊型グループワークの魅力—PCA乗鞍の参加者の声から— 日本人間性心理学会第36回大会プログラム・発表論文集, 122-123.
6. 三浦直樹 2017 専修学校におけるメンバーズセッションのあるエンカウンターグループ 日本人間性心理学会第36回大会プログラム・発表論文集, 120-121.
7. 望月洋介 2017 リフレクティング・プロセスを応用したファシリテータートレーニングの試み 日本人間性心理学会第36回大会プログラム・発表論文集, 86-87.
8. 日本人間性心理学会（第36回大会） 2017 自主企画:グループ実践について、世代を超えて語り合う会 日本人間性心理学会第35回大会プログラム・発表論文集, 168-169.
筆頭発表者（高橋紀子）
連名発表者（吉村麻奈美・吉川麻衣子・押江 隆・野島一彦・下田節夫・岡村達也）
9. 日本人間性心理学会（第36回大会） 2017 自主企画:「EG カフェ」に参加しませんか 日本人間性心理学会第35回大会プログラム・発表論文集, 176-177.
企画者・ファシリテーター（法眼裕子・大下智子）
10. 大下智子・法眼裕子 2017 エンカウンター・グループ継続参加のもたらす心理臨床家としての生き方への影響 日本人間性心理学会第36回大会プログラム・発表論文集, 50-51.
11. 新村信貴・水野行範 2017 ファミリー・グループの持つ力と可能性—経年参加家族へのインタビューを通して— 日本人間性心理学会第36回大会プログラム・発表論文集, 104-105.
12. 杉浦崇仁・木村太一・白井祐浩・古野 薫・村山正治 2017 PCAグループ

の効果とC.R.Rogersの3条件の関連性に関する実証的研究—関係認知の視点から— 日本人間性心理学会第36回大会プログラム・発表論文集, 70-71.

D. 翻訳

[該当文献なし]

E. 海外文献紹介

[該当文献なし]

F. 書評

[該当文献なし]

付：同リスト（～2016）

「第三部：ベーシック・エンカウンター・グループ」の追録

A. 書籍

[該当文献なし]

B. 研究論文

1. 荒井美音里 2016 大学の授業における半構成的エンカウンター・グループの事例研究
2. 鹿子田睦月 2016 ベーシック・エンカウンター・グループ体験の報告と考察 跡見学園女子大学文学部臨床心理学科紀要, 4, 29-37.
3. 野島一彦・下田節夫他 2016 野島の37年前のエンカウンター・グループ事例の検討 跡見学園女子大学文学部臨床心理学科紀要, 4, 105-111.
4. 坂中正義 2012 パーソン・センタード・アプローチの立場からの構成的エンカウンター・グループの事例—C.R.Rogersの中核3条件を中心に— 福岡教育大学紀要, 61(4), 37-47.
5. 杉浦崇仁・吉野 薫他 2016 「PCAグループ」及び「PCAGIP法」に関する文献リスト（2015） 東亜臨床心理学研究, 15, 133-140.
6. 鈴木潤也 2009 エンカウンター・グループの日本における導入の歴史と今後の発展についての課題 青山心理学研究, 9, 47-59.

C. 学会発表

[該当文献なし]

D. 翻訳

[該当文献なし]

E. 海外文献紹介

〔該当文献なし〕

F. 書評

1. 九州大学こころとそだちの相談室「こだち News」事務局編 2012 「野島一彦監修 高橋紀子編 2011『グループ臨床家を育てる—ファシリテーションを学ぶシステム・活かすプロセス—』創元社」九州大学こころとそだちの相談室「こだち News」, 10, 4.

第Ⅳ部：その他

「第Ⅳ部：その他」には関連文献のうち、親子関係・家庭生活、教育・学習（学生中心の教授法や人間中心の教育など）等の来談者中心のオリエンテーションの広がりやその基礎概念、歴史、人物等、また、表現療法などのこれまでの3部には分類されないものを収録した。

2017年の概要は次のとおりである。「A. 書籍」はなかった。「B. 研究論文」は5本であった。「C. 学会発表」は11本で、そのうち1つがシンポジウムであった。「D. 翻訳」はなかった。「E. 海外文献紹介」はなかった。「F. 書評」は2本であった。

2017年における「その他」の特徴は、PCAGIPに関わる様々な文献が発行されたことであろう。理論や効果などの基礎的研究（C-3、C-4、C-7）に加え、様々な領域（B-3、B-4、C-1、C-2、C-9）での活用といったPCAGIPの深みと広がりを支える研究や実践が展開され、PCAGIPの着実な発展が認められる。

なお、2017年は「人間性心理学研究」に1本（B-5）、関連文献が掲載された。

A. 書籍

〔該当文献なし〕

B. 研究論文

1. 古野 薫・村山正治 2017 PCAGIPファシリテーター体験～初めての経験から見えたもの 東亜大学大学院心理臨床研究, 16, 21-26.
2. 野中浩一 2017 「続かなさ」から「続く」への変容 地方のフリースクールにおける10年の歩み 東亜大学大学院心理臨床研究, 16, 37-48.
3. 押江 隆・藤田洋子・植木美紀・多田佳歩・鞠川由貴・溝口英登・森原 梓・山本優子・渡邊弓子 2017 PCAGIP法にパーソン・センタードな個人スーパービジョンを組み合わせた「リフレキシブPCAGIP」の開発 山口大学教育学部附属教育実践総合センター研究紀要, 43, 39-46.
4. 筒井優介 2017 研究者の数珠つなぎ：夢PCAGIP（ゆめピカジップ） The

Focuser's Focus, 19(4), 8-9.

5. 山下佳久 2017 TAEが与える大学生の進路の捉え直しの過程について— 質的研究における過程モデルの生成— 人間性心理学研究, 35(1), 63-75.

C. 学会発表

1. 南陽子・村山正治 2017 キャリアコンサルティングへのPCAGIP法導入の意義と課題 日本人間性心理学会第36回大会プログラム・発表論文集, 124-125.
2. 内藤裕子 2017 被災地に勤務する養護教諭のエンパワーメントを目的としたPCAGIPの実践と効果 日本人間性心理学会第36回大会プログラム・発表論文集, 88-89.
3. 並木崇浩 2017 PCAGIPの場に関する一考察—アンケートの質的分析を通して— 日本人間性心理学会第36回大会プログラム・発表論文集, 74-75.
4. 日本人間性心理学会（第36回大会）2017 自主企画：PCAGIP法におけるPCAの人間観 日本人間性心理学会第35回大会プログラム・発表論文集, 164.
企画者（中田行重・小野真由子・並木崇浩）
話題提供者（井出智博・堀尾直美・望月洋介）
指定討論者（村山正治・森川友子）
5. 野田 諭・金子周平・堀江理恵 2017 山陰人間関係研究会—PCAの考え方を体験・共有するコミュニティー— 日本人間性心理学会第36回大会プログラム・発表論文集, 150.
6. 大築明生 2017 自殺者が出た職場における職員のためのサポートグループ 日本人間性心理学会第36回大会プログラム・発表論文集, 68-69.
7. 小野真由子 2017 PCAGIP法における効果の探索—事例提供者の体験に着目して— 日本人間性心理学会第36回大会プログラム・発表論文集, 72-73.
8. 得丸智子・村里忠之 2017 TAEの“交差”を楽しみましょう アジア・フォーカシング国際会議（AFIC）プログラム
9. 筒井優介 2017 夢PCAGIP：グループで夢を楽しむ アジア・フォーカシング国際会議（AFIC）プログラム
10. 梅津 碧・高橋寛子 2017 子育て支援センターを利用する母親の育児体験への一考察 日本人間性心理学会第36回大会プログラム・発表論文集, 142.
11. 矢野キエ 2017 コラージュワークの質問はプロセスの進展にどのように機能するか 日本人間性心理学会第36回大会プログラム・発表論文集, 62-63.

D. 翻訳

〔該当文献なし〕

E. 海外文献紹介

[該当文献なし]

F. 書評

1. 村久保雅孝 2017「末武康弘・諸富祥彦・得丸智子・村里忠之編著 2016『「主観性を科学化する」質的研究法入門—TAEを中心に—』金子書房」人間性心理学研究, 35(1), 113-115.
2. 上村英生 2017「末武康弘・諸富祥彦・得丸智子・村里忠之編著 2016『「主観性を科学化する」質的研究法入門—TAEを中心に—』金子書房」The Focuser's Focus, 20(3), 22-23.

付：同リスト（～2016）「第Ⅳ部：その他」の追録

A. 書籍

1. 近藤千恵監修 1992 看護手帖 親業訓練協会
 - I 看護の仕事は大変だけれど
 - II 患者さんの気持ちに耳を傾ける
 - III 患者さんに気持ちを伝える—「わたしメッセージ」
 - IV 「勝負なし法」—「対立」をどう解消して行くか
 - V 「勝負なし法」でも解決しないときに—看護する側の「価値観」を伝えて行く—
 - VI 「看護師对患者」にとどまらない「親業」の効果
 - VII ふれあいコミュニケーション・リーダーの資格について
2. 近藤千恵 1999 ビジネスマンのための家庭手帖 親業訓練協会
 - 1 父親の出番は“かけ橋”から
 - 2 やる気の芽をつむ「ダメ」の一言
 - 3 父親の権威
 - 4 わが子であっても「人生の所有権」を侵さない
 - 5 子どもに伝わる愛情表現を
 - 6 子どもの気持ちをつかむ「能動的な聞き方」
 - 7 子どもの不満
 - 8 非難めいた言葉や命令口調は相手を傷つけるだけ
 - 9 父親の育児参加で一石二鳥
 - 10 親の介護をするときの心の姿勢
 - 11 年老いた親がおかしなことを言い出したら
 - 12 世界に広がるPET（親業訓練）
3. 近藤千恵 2015 親子手帖 親業訓練協会
 - I 子どもは子どもの人生を、親は親の人生を

- II 子どもが悩みにおしつぶされないために
 - III 語りかけよう親のホンネ
 - IV 親には四つのタイプがある—あなたはどのタイプ?—
 - V 勝負なしでは解決しないこともある—伝えていこう親の心—
 - VI 親子だけにとどまらない親業の効果
4. 近藤千恵監修 土岐圭子 2006 教師学入門 みくに出版
- はじめに
- 第1章 教師のための人間関係プログラム
 - 第2章 自分の感じ方で整理する「行動の四角形」
 - 第3章 問題所有者を決め、適切な対応を判断する
 - 第4章 教師の思いを伝える「わたしメッセージ」
 - 第5章 生徒の成長を促す「能動的な聞き方」
 - 第6章 対立を解決する「第三法（勝負なし法）」
 - 第7章 学校の中で価値観が対立したら
 - 第8章 生徒の成長・発達を促す環境づくり
- 教師学の方法を使った事例集
- あとがき
5. 近藤千恵監修 教師学研究会編 1991 教師学手帖 親業訓練協会
- I 生徒を叱る前に
 - II 生徒の声に耳を傾ける—能動的な聞き方—
 - III 教師も同じ人間だから—わたしメッセージ—
 - IV 勝負なし法
 - V 環境を改善しよう
 - VI 教師の価値観を伝えよう—勝負なし法でも解決しないときに—
 - VII こんなところにも「教師学」が役に立つ
6. 近藤千恵監修 田中きよみ 2010 自己表現手帖 親業訓練協会
- I 主役で生きるということ
 - II 人との接し方
 - III 人間関係を大切に自己表現
 - IV 4種類の〈わたしメッセージ〉
 - V 自己表現と不安
 - VI 何を求め、何を大切に生きているのか—欲求と価値を知る—
 - VII 迷い、悩む人への援助
 - VIII 時間を制してこそ人生の主役
 - IX みんな違ってみんな良い
7. 親業訓練協会編 2000 心を伝える21世紀のコミュニケーション 親業訓練協会
- はじめに（近藤千恵）

親業訓練協会創立20周年を祝って（星野 命）

I 体験学習の講座とゴードン博士のビジョン

第1章 日本における親業の歴史と拡がり

第2章 ゴードン博士のことば

第3章 専門の立場から21世紀の家族像を問う

II トマス・ゴードン博士について

B. 研究論文

1. 相澤るつ子 2009 パーソンセンタード表現アートセラピーでできること—吃音児の親子ワーク「マイ・パペット・ワークショップ」の報告（特集 母親と家族を支えるという視点—障害のある子どもを地域で豊かに育てるために—）保健の科学 51(6), 383-386.
2. 木口恵美子 2016 障がい分野におけるパーソンセンタード（本人中心）アセスメントに関する考察—オーストラリアの取り組みを参考に— 東洋大学「福祉社会開発研究」, 8, 13-20.
3. 栗田充治 2002 教育とコミュニケーション—教師学の提案— 農業教育資料, 46, 4-6.
4. 小野京子 2015 パーソンセンタード表現アートセラピーのトレーニングコース参加者の心理的成長 神奈川大学心理相談センター紀要「心理相談研究」, 7, 1-12.

C. 学会発表

〔該当文献なし〕

D. 翻訳

〔該当文献なし〕

E. 海外文献紹介

〔該当文献なし〕

F. 書評

1. 園田雅代 2016「Cooper, M. & McLeod, J.（末武康弘・清水幹夫監訳）2015『心理臨床への多面的アプローチ—効果的なセラピーの目標・課題・方法—』岩崎学術出版社」学術通信 岩崎学術出版社, 113, 10.

統計

2017年に発行された文献、及び追録された文献を先述の坂中（2004）に従い

分類した。その結果を以前のデータと共にTableに示した。2017年に公刊された関連文献は149篇（「来談者中心療法・パーソンセンタード・カウンセリング」45篇、「体験過程療法・フォーカシング指向心理療法」78篇、「ベーシック・エンカウンター・グループ」19篇、「その他」7篇）であった⁶。

よって、これまでに日本で公刊された関連文献は7906篇（「来談者中心療法・パーソンセンタード・カウンセリング」3517篇、「体験過程療法・フォーカシング指向心理療法」2193篇、「ベーシック・エンカウンター・グループ」1846篇、「その他」350篇）となった。

お願い

リストに収録した文献の記述上の誤りを見つけられた方、また、該当する文献を執筆された方、もれている文献を御存知の方は、筆者まで御連絡願えれば幸いである。

連絡先 〒466-8673 愛知県 名古屋市昭和区山里町18
南山大学 人文学部 坂中正義
E-mail:sakanaka@nanzan-u.ac.jp
Fax: 052-832-3110（ダイヤルイン）3955

⁶ 学会発表は合計に含まれていない。

Table 日本におけるパーソンセンタード・アプローチに関する発行文献数 (2018.01.31現在)

	50-54	55-59	60-64	65-69	70-74	75-79	80-84	85-89	90-94	95-99	00-04	05-09	10-14	2015	2016	2017	合計	
来談者中心療法	2	7	13	35	14	15	13	9	20	15	8	14	4	6	0	0	2	177
パーソンセンタード・カウンセリング (含:基礎概念)	3	5	9	27	47	43	48	20	111	118	53	35	44	1	0	0	0	564
遊戯療法も含む	0	0	0	1	2	9	19	15	3	11	13	15	8	8	1	2	0	107
論文:一般	0	5	91	68	67	114	149	229	186	317	347	280	249	43	16	35	2196	
翻訳:単行本	1	3	3	5	1	4	3	4	1	0	10	12	4	0	0	0	0	55
翻訳:章	0	0	41	106	3	6	8	7	6	13	59	1	6	1	0	0	0	257
海外文献紹介	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2	8	2	7	2	1	23
書評	0	0	1	2	0	2	9	4	6	15	13	57	21	3	0	5	138	
参考:シンポ	0	0	0	0	0	0	0	0	1	3	9	11	2	3	3	42	42	
参考:発表:一般	0	5	28	19	0	16	2	4	18	21	38	27	45	5	3	13	253	
合計(学会発表は除く)	6	20	158	247	138	190	249	288	334	489	505	422	338	69	19	45	3517	
体験過程療法	0	0	0	0	1	0	2	0	2	8	6	8	5	2	2	0	0	36
フォーカシング指向心理療法 (含:体験過程の基礎概念)	0	0	0	0	0	2	5	4	5	17	37	18	7	29	0	0	0	124
論文:特集	0	0	0	0	0	0	0	0	1	3	5	21	2	0	0	3	35	
論文:一般	0	0	0	0	1	24	65	99	130	191	401	365	344	59	56	67	1802	
翻訳:単行本	0	0	0	0	0	0	0	1	1	5	5	8	3	0	2	0	26	
翻訳:章	0	0	2	5	2	7	8	3	1	5	5	5	12	2	4	5	66	
海外文献紹介	0	0	0	0	1	0	0	2	1	1	0	1	2	0	0	1	9	
書評	0	0	0	0	1	0	1	0	5	6	16	21	13	17	5	8	95	
参考:シンポ	0	0	0	0	0	0	0	0	3	3	6	17	2	5	4	46	46	
参考:発表:一般	0	0	0	0	0	5	11	28	41	44	60	139	117	4	14	32	536	
合計(学会発表は除く)	0	0	2	7	6	37	80	116	158	266	461	428	414	68	72	78	2193	
ベシック・エンカウンター・グループ (含:グループカウンセリング)	0	1	0	1	1	0	1	2	1	4	3	2	4	5	1	0	0	25
書籍:章	0	0	1	1	4	19	16	15	30	29	14	4	10	1	0	0	0	144
論文:特集	0	0	0	0	0	3	0	1	8	1	4	2	0	1	0	0	20	
論文:一般	0	0	3	0	37	121	247	206	283	155	216	143	112	36	8	19	1586	
翻訳:単行本	0	0	0	0	0	3	4	2	0	0	1	3	0	0	0	0	14	
翻訳:章	0	0	0	0	0	1	2	0	1	2	4	4	0	0	0	0	14	
海外文献紹介	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	2	
書評	0	0	0	0	0	2	0	1	2	13	3	6	7	5	2	0	41	
参考:シンポ	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	1	3	6	1	2	2	25	
参考:発表:一般	0	0	1	4	2	46	149	270	226	339	195	247	167	132	41	8	19	1846
合計(学会発表は除く)	0	1	4	2	4	2	46	149	270	226	339	195	247	167	132	41	8	19
その他 (教育・経営など)	0	0	0	0	4	2	2	0	0	3	1	2	6	7	2	1	0	30
書籍:章	0	0	0	0	2	0	0	2	0	5	6	3	1	11	1	0	0	31
論文:特集	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	3
論文:一般	0	0	4	1	6	13	19	10	25	13	45	38	49	8	2	5	238	
翻訳:単行本	0	0	0	1	1	0	3	1	0	0	3	1	1	1	0	0	12	
翻訳:章	0	0	0	0	4	1	0	1	0	1	0	9	0	1	0	0	17	
海外文献紹介	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	
書評	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	5	2	4	2	1	2	18	
参考:シンポ	0	0	0	0	0	0	0	0	1	3	1	16	1	25	6	8	10	81
参考:発表:一般	0	0	4	13	10	15	26	12	34	20	67	48	75	14	5	7	350	
合計(学会発表は除く)	6	21	168	269	200	391	625	642	865	970	1280	1065	959	192	104	149	7906	
総計																		

注) データは坂中による一連の「日本におけるパーソンセンタード・アプローチに関する文献リスト」シリーズによった。